

ある日の育児日記から

(90)

佐藤 和代

卒園したばかりのKくんのお家に遊びに行きました。有の新しい担任の先生の話をしていたら、Kくんが「有、S先生って、すごいんだぞー」ちよっと声をひそめて、秘密の話のようにささやきました。「すごいぞ、S先生、どくしん、なんだぞー」…一瞬、目が点になった私。Kくんのお母さんが笑って、「この子たちのクラス、なぜか独身って言葉がはやったのよ。何がすごいのかよくわかんないわよね」と言いました。

有のほうは「何のこと？」といった顔ですが、K君はかまわず「すごいだろ」と繰り返します。



どくしん、ねえ。意味がわかってるのかしら。発音からすごいことのような気がしてるのかな。考えてみると、少し毒々しいというか、すごい音のある音のような気がします。

大人になると、言葉の意味にとらわれすぎて、言葉の音そのものの響きには鈍感になるのでしょいか。漢字を覚えはじめたまも時々「これ、読み方がしぶいね」なんて言ってます。私も小さい頃、聞いただけでいやーな気分になる言葉や、大

好きな言葉がありました。あつたことは覚えていてもその感覚は甦ってこなくて、少々寂しい。さて、有に「独身」の意味を教えるべきか、しばらく秘密めいた語感を楽しませるべきか!?



このページのイラストは、あつたが読みはじめました。